

英語学科		教授	青柳 真紀子	大学院の授業担当 有
<b>教育活動</b>				
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)				
1	基礎科目(Reading Strategies)における、口頭練習	現在	<p><b>オーラルサマリーの練習</b>          通常の文字によるparaphrase、summary、detailed description等に加え、口頭での練習を毎回行う。          他者、とりわけnative speakerが書いた立派で長い英文や、自ら書いて準備してきた英文を見て読み上げる学生が多い中、文字に頼らずに、自らの言葉として発する練習をすることで、「話す」行為の重要性とその練習の必要性を認識する。          学生自らの発話をペアやグループで試すことはもちろんだが、担当教員が様々な例(長さ、語彙・構文レベル、詳細度など)を提示し、それをリピートやシャドウイング、暗誦をする練習は好評で、かつ効果が見られ、続けていきたい。</p>	
2	共通科目(英語の音声)における、授業内と自宅学習の統合評価	現在	<p><b>練習問題の多用</b>          理解が難しいという声に応じて、毎回の授業における講義や練習の後、内容の確認や発展のための練習問題を自宅課題とする。授業内参加とこの課題遂行を総合的に評価する。</p>	
3	専門科目(英語専門講読)における、理解度の自己確認と読み課題遂行のモチベーションの維持	現在	<p><b>毎回クイズの実施</b>          毎回、担当学生による“クイズ”(担当教員と相談済み)と“まとめ”を実施することで、理解度の確認を可能にするとともに、読み課題遂行のモチベーションを維持する。また、学期を通してクイズを積み上げていくことで、内容全体の理解を促す。</p> <p><b>自己チェックシートの併用</b>          読み課題の進捗や内容理解度を自己確認するチェックシートを活用する。          これにより、遅れや未完からくる、進捗状況の未確認や混乱、ひいてはモチベーションの低下や履修放棄を防ぐ。</p>	
4	専門科目(音声・音韻論)における、ピア・ティーチング(学生間指導)	現在	<p><b>ピア・ティーチング(学生間指導)の活用</b>          履修歴や到達度の差が大きい学生(完全な初習者と、関連科目5、6学期分の既修者など)が混在することが多いので、ペア(バディ)間やグループ内の知識量の均質化を目指し、分かる者が工夫をして教え、分からないものが教えられ、質問・確認することで、双方に学習効果をもたらす。</p>	
5	専門科目(ゼミ)における、実践的、体験的な学習	現在	<p><b>音の体験授業</b>          音声学や音韻論、言語学の講義やテキスト学習による知識に基づき、演習(ゼミ)では、実際に音声を収集・録音し、これを観察・分析したり、実験をしたりして、実践的・体験的な学習を行う。</p>	

英語学科	教授	青柳 真紀子	大学院の授業担当 有
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b>			
『ベーシックジーニアス英和辞典』(第2版) 大修館	2017年	(発音監修: 音声記号、音声解説、録音)	
『レクサス英和辞典』 旺文社	2002年	(執筆協力)	
『音声・聴覚のための信号とシステム』 海文堂	1998年	(共訳)	
『The News』(雑誌教材) ノース	1995年 - 2002年	(録音監修、執筆協力)	
『The News』(通信講座) Able/Notos	1997年 - 1998年	(分担執筆、分担講義)	
『入社5年目までの英会話』 バベル	1992年	(分担執筆)	
『日本語』(1991年1, 2月号) アルク	1991年	(製作協力、録音)	
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>			
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b>			
<b>学会等および社会における主な活動(学外の委員、役職等)</b>			
年月日	活動内容		
1990年9月 - 現在	日本音声学会		
2010年4月 - 現在	日本音声学会評議員		
2019年4月 - 現在	日本音声学会編集委員		
2013年4月 - 2016年3月	日本音声学会国際交流委員		
2010年4月 - 2013年3月	日本音声学会企画委員		
2008年9月-2010年3月 / 2013年4月-2016年3月	日本音声学会庶務委員		
2003年4月 - 2014年3月	上智大学言語学会幹事		
2016年6月	埼玉県立南陵高等学校 英語スピーチコンテスト審査委員		
2012年11月	埼玉県草加市中学校 英語スピーチコンテスト審査委員		
<b>その他</b>			
科学研究費助成事業: ・ 文部科学省科学研究費補助研究 若手研究 (B) 14710381「無声化母音が後続子音の有声・無声の知覚に及ぼす影響とその範囲」 (2002年4月～2004年3月)			